

## はじめに



その昔1953年(昭和28年)頃、「50Mcバンドは全く淋しい。7Mcを銀座通りとすれば50Mcは人里はなれた山道、だれかに会うとおくくにも人がいたかと感激する」で始まった月刊『CQ ham radio』誌の「About VHF」も、お陰様で600回を優に超える長期連載コラムとなりました。これも皆様の永年にわたるご支援の賜と厚く感謝申し上げます。

1953年頃の7MHzは、二つのスポット周波数に数千局が重なってQSOをしている時代で、VHFと言え50MHzで4MHz幅がありましたが、だれも出ていない淋しいバンドでした。ですからここが50MHzだと皆に知らせようということで、音楽を流したり、将棋を指したり、柱時計の中にマイクを入れてコチコチという音をずっと出したり、每晚20時には一斉に出ようとか、水晶の逡倍を間違えて32MHzで「CQ 6m」をコールしている人に有線電話を掛け「50MHzはもっと上、逡倍を間違えるな」といったり、今から思うと突拍子もないこともあり、叱られることも多々ありました。

しかし、今や50MHzだけでなくV/UHFまでもが、HF機に搭載されるようになりました。そして、コンディションの良いときや、コンテストともなるとたいへん賑わっています。

本書によりVHF/UHFの温故知新、そして超短波の変遷、アマチュア無線の楽しさを皆様方にわかっていただきたいと思います。

2004年8月

日本アマチュア無線連盟会長

JA1AN

原 昌 三